

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念をもとにホーム独自の理念がある。事務所に掲げ、月1回の会議冒頭に職員が読み上げ振り返りを行っている。	開設時に幹部職員で案を出し、ホーム独自の5つの項目からなる理念を設定しました。事務所に掲示し、毎月の職員会議で復唱することで、理念に基づいたサービスを提供できるよう心がけています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で活動は狭められているが、ホームでのサロンの開催やフードバンク事業を通じて地域の方々と協力体制をとっている。また、回覧板を通して広報誌を載せていただき日々の活動を知っていただいている。	新型コロナウイルスの影響もありますが、町内の回覧板で広報誌を回覧し地域の方に事業所の活動の様子を知っていただいております。町内の清掃活動に参加したり、事業所の避難訓練には地域の方にご参加頂いております。また、ホームでは毎週日曜日にフードバンク事業を開催したり、サロンも開催するなど、地域との交流が行われています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症高齢者の方々と障害者との関係性やふれあいについて、積極的に外に出るようにし目に触れる機会を作っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には市の担当者、地域住民、家族代表、ご利用者、障がい担当管理者らが参加し利用状況やホームでの取り組みなど報告している。会議の中で、地域活動などお聞きし協力体制をとっている。	区長、市の担当者、ご利用者、ご家族代表などに参加していただき2ヶ月に1回定期的に参加され、事業所からの報告に加え、参加者から運営に対する意見があり、出された意見は職員に伝えられ、改善が必要なものは職員間で話し合い対応がとられています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者には運営推進会議に参加いただいている。市が主催する研修会なども積極的に参加し連携を築くようにしている。	市の担当者には2ヶ月に1度の運営推進会議に参加して頂きアドバイスを頂いており、不明な点について連絡を取り連携が図られています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束におけるマニュアルを整備し会議を通して意識づけしている。日中は玄関の施錠はせず、いつでも外に出られる環境を整えている。	身体拘束検討委員会で検討の機会を定期的に持ち、身体拘束を行わないケアを実践し、身体拘束のケースは現在もありません。また、職員の理解を深めるための身体拘束や不適切ケアに関する研修も実施されています。	身体拘束検討委員会が3ヶ月に1度の期間内で定期的に行われていない時期がありましたので、定期的に行われるように改善されることを期待します。
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	職員には動画などを使用して随時研修の機会を設けて学んでいる。また虐待に通じる不適切ケアについても研修などで取り上げ学んでいる。	虐待については日々のご利用者の身体や表情の変化に気づくように意識しています。また、職員の言葉遣いについても気を付けるように指導したり、職員の理解を深めるための虐待防止に関する研修も実施されています。	研修報告書に日付や時間が記載されていない方もいましたので、記載漏れの無いように周知されることを期待します。
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人と契約している行政書士の方と連携を保ち困りごとなど相談にのっていただいている。また、月1回ホームに来ていただき地域の方々等の相談コーナーを設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にはご家族にお越しいただき、契約書・重要事項説明書をわかりやすく説明し納得いただいて署名、捺印していただいています。料金改定の際は説明を行い同意を得て捺印していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族と気兼ねなく話せるように関係づくりに努めている。ご利用者にはアンケート調査などで集めた意見を運営推進会議で定時改善に努めている。	ご家族には運営推進会議の場だけでなく、面会時や電話連絡の際などに気付いたことや要望は無いか確認しています。また、ご利用者アンケートも実施し、ご利用者の要望を運営に反映できるようにしています。	苦情報告書の確認日を記入していない方もいましたので、記載漏れの無いように周知されることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月職員会議で職員の意見を反映できるように努めている。また、個別面談で意見や要望を聞く機会を設けている。管理者は職員と共に現場に出て業務内容など改善点、等を聞き出している。	日常の業務の中で職員から改善提案があれば、職員会議の場で職員同士で検討が行われ、改善されています。また、定期的に個人面談の機会も設け職員からの意見も確認しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個別面談を年2回行い職員の意識問題点を探りだしている。また、衛生推進委員会を立ち上げメンタルヘルスなど職場環境を整えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	開設時1か月間研修システムを作りトレーニングしてきた。開設後も内部研修やオンラインなどで学ぶ機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	希望者には他グループホームの実習に行っただき学んでいただいている。コロナ禍であるが出来る限りオンラインなどで勉強会を開いている。法人内で活動やイベントなど参加し交流する機会を設けている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所後より2週間ほど気づきメモを活用して情報を職員間で共有している。その人の何気ない仕草など気づきを大切にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の入居後の事や将来のことなど話し合い本人、家族を含んだ対応を検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前にサービス事業所に出向き情報をいただき本人の様子を確認させていただいています。入居後も生活の様子を確かめ担当者とは意見を出し合いサービスにつなげている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来る事、役割をあたえ生きがいを見出し、感謝する声掛けを心掛けている。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の関係を切らさないようにコロナ禍であるが、ホームに来ていただけるようにしている。ホームに来ていただいたときは、職員はホームでの様子などお話をさせていただいている。遠方の方は、電話を取り次いだりメールなどのやり取りをしている。毎月近況報告や広報誌など送り日常生活がわかるようにしている。	ホームの状況をご家族にも理解していただくため、事業所広報の送付や毎月の近況報告の送付を行っています。また、医療機関への受診など、ご利用者とご家族との関係を断ち切らないためにも、ご家族にお願いできる場所はお願ひするなど、ご家族とホームが協力してご利用者を支える関係が構築されています。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族に会いに行ったり、来ていただいたりしています。コロナ禍でもできるだけ面会を規制せず行っています。	新型コロナウイルスの影響もありますが、ご家族に面会に来ていただいたり、ご自宅へ出かけたり、行きつけの美容室を利用される方もいるなど、馴染みの関係が途切れないように支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員がいろいろ口出しせずに、ご利用者同士の行動を見守っている。障がい者の方が時々高齢者のお世話など気にかけてくれる。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了された方は1名おられます。家族とは法人内の利用者でしたのでその後の相談などさせていただいていた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者アンケートをとって本人の思いや悩み、意向など確認させていただいている。	ご利用者アンケートや日々のケアの中での表情や会話の中から思いの把握が行われており、その情報は職員間で共有するようにしています。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に独自のアセスメントシートで情報を得ている。サービスを利用していた場合その場所に出向き情報を確認している。入居後は気づきメモを使用して職員間で情報を共有している。	思いや意向の把握同様、アセスメントによる情報収集、日常のケアの中から得られた情報の記録が行われており、職員会議等にて職員間で情報を共有しています。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝、夕の申し送りにてその人の心身状態、活動状況等日々把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者にはそれぞれ担当者をつけている。月1回の職員会議で担当者より課題を出していただき、職員で検討し意見を出していただいている。問題点を抽出しなぜそうなったかを発見できるようにしている。	職員の日々のケアの中で得た情報やご家族からの情報を基に、担当職員や計画作成担当者を中心にサービス担当者会議を開催し、複数の職員の意見を踏まえて介護計画が作成されています。	調査時点で介護計画書の作成者や説明日が記載されていない方や、短期目標の期間が記載されていない方もいましたので、今後ミスの無いように改善されることを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録にはタブレットを使用して記録している。事故などや怪我などした場合写真など記録に残し誰が見てもわかるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご主人が他施設に住まわれている方で会いたい場合、こちらから話を持ち掛けて訪問する機会を設けている。本人や家族の要望には柔軟に対応を考えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今まで行かれていた理美容店や行きつけのお店など出かけられるように支援している。家族はもちろん友人や知人など来ていただけるように説明している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医を継続していただいている。定期受診は家族同行していただいている。Drには書面で現況報告をしている。	ご家族にも協力していただき、希望のかかりつけ医への受診支援が行われています。医師との情報は、ご家族を介しホーム側から情報を提供し、診断内容はご家族から収集が行われています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホーム障害担当看護師に相談アドバイスをいただいている。必要時には看護師ノートを使用しお互いに情報を交換している。24時間オンコールでも対応いただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には病院に出向き、担当医やSW、家族と共に情報を共有し安心していただけるように支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化について説明をしている。医療的ケアについて今後の課題となっている。	ホームにて重度化・看取り対応の指針を作成し、契約時にご家族に説明しています。今後はご利用者の状態に応じて話し合いの機会を設け、ホームとしてできる支援を行っていきたいと考えています。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDを設置しており毎年訓練しています。開設時は救命講習を職員全員受けていただいた。	事業所にて開設時に救命講習を実施したり、AEDの使用訓練もしており、職員が適切な初期対応ができるようにしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災による避難訓練は年2回法人全体で行っています。また、地震などによる災害訓練や緊急連絡網使って連絡体制などの訓練も行っている。地域の方には、回覧板を使用して避難訓練を呼びかけ数人の方が参加していただいた。2階交流スペースは地域の方々の避難先での使用もお知らせしている。	事業所にて日中・夜間の火災を想定した避難訓練を実施し、地域住民にも参加してもらっています。また、緊急時を想定した緊急連絡網やラインワークスを使用した訓練も行われており、非常用食品も確保されています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人ひとりの声掛けのトーンや言葉などに注視して対応しています。できるだけ行動する前に声をかけてから行っているようにしている。	言葉かけ等が馴れ合いにならないよう、ご本人の人格を重視したケアが行えるように職員会議の場等で徹底されています。また、広報の写真の掲載やホームページへの掲載についても入居の際に確認を得ています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話の中での本人の思いなどあったら職員間で共有できるように連絡ノートなど活用している。難聴の方にはカードなど使用して意思を確かめている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	時間割など気にすることなく、1人ひとり自由に過ごしていただいています。活動日などは無理強いせず声掛けで参加を求めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行きつけの美容院や理容店に行けるように支援している。できない場合は近くの理容店にお連れしています。衣類なども本人と買い物に行き好みの物を購入していただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居時本人の嗜好をお聞きし食事の提供をしています。朝はごはんかパンの選択にしておりゆっくり自分のペースで食べていただけるようにしています。食事の準備や片付けはできることをお願いしている。	ご利用者にもできる範囲で調理や後片付けも行ってもらっています。また、ご利用者と一緒に梅干し作りや笹団子作りをしたり、畑でさつまいもを収穫するなどし、ご利用者に食事を楽しんで頂いています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分摂取量を確認し記録している。自由に水分をとれるように麦茶ボトルをテーブルに置いていつでも飲めるようにしている。また、好きな物を食べていただけるようにホールにご利用者用冷蔵庫も設置している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	洗面台に一人ひとりの口腔ケア用具があり、食後のケアの声掛けを行っている。必要に応じて近くにある協力医療機関やかかりつけの歯科医に受診されている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時のトイレ誘導はせず、排泄のリズムやサインを見つけお誘いしている。	ご利用者の状態に合わせて排泄チェックを行ない、一人ひとりに合わせた適切な誘導、支援をしています。職員のさり気ない見守りや声かけで気持ちよくできています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤服用の方は排便確認表を使用して服薬調整している。水分摂取に心掛け好きな飲み物をお聞きし適宜お出ししている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	無理強いせず入浴はお誘いしている。希望により夕食後入浴も可能としている。	ご利用者の要望に合わせて夜間対応での入浴支援や同性介助での支援、入浴を嫌がる方にも声かけの方法やタイミングを配慮し入浴を支援しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夕食後はそれぞれのペースで就寝をしている。本人のタオルケットや毛布など持参していただき安心して寝ていただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	1人ひとりの服薬ファイルがありいつでも閲覧できるようにしている。薬は専用の薬BOXに入れ日々職員が取り出すときダブルチェックしている。受診時には家族の同行を基本としているが、先生には状態報告をお手紙にして渡している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居時アセスメントにてその人の仕事、趣味など聞き出して役割作りをしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	近くのスーパーなど職員と一緒に出掛けるなど支援している。また、行事などで外出など計画して楽しんでいただいているが、コロナ禍で数は少ない。	新型コロナウイルスの影響で自粛していますが、季節に合わせたお花見・チューリップ見学、月岡温泉の足湯に出かけたり、スーパーへの買い物などの日常的な外出支援も行っています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご利用者のお小遣いは事務所で預かっている。家族の了承を得て、ホーム内に自販機があるので小銭など自分で管理していただき自由に飲料水を飲まれるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	リビングには子機を置き、いつでも電話ができるようにしています。Wi-Fiを設置し自由にPCを見たり動画が見れるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースには広々とした窓があり、光もよく差し込んでいる。また、障子戸など使用し内装も和風の空間を醸し出して施設感を排除している。	共用スペースは天井が高く採光が十分に取入れられるつくりとなっており、地域の方から頂いたお花を飾ったり、ご利用者の作品を掲示し、ご利用者が気持ちよく過ごせる雰囲気を感じられます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペースは福祉用家具は設置せず、一般家具を置いてなじみやすい場所作りに努めている。畳部屋の談話室も設けており、ご利用者や家族の方が静かな場所で一緒に過ごしていただけるお部屋を設けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた物を持ち込んでいただき安心して生活できるようにしている。	テレビや時計は備え付けですが、ご利用者それぞれが使い慣れた物やご家族の写真を飾るなど、思い思いの品物を居室に持込めるようになっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	1人ひとり「できる事」「わかること」を入所時気づきメモを通して職員間で共有しています。職員会議や申し送り時、問題点を出し合って検討している。また、建物自体も設計から法人職員が関わり、自分が住みたい施設作りをみんなで作りだしている。		

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				